

今週の御言葉 「わたしはよみがえりです。いのちです」

(ネヘミヤ記2章1節～18節)

「…王さま、もしもよろしくて、このしもべをいれてくださいますなら、私をユダの地、私の先祖の墓のある町へ送って、それを再建させてください。」(2:5)。

(ヨハネの福音書11章17節～27節)

「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」(11:25)。

今日のメッセージ要旨

◎私たちは絶望的な状況におかれる場合があります。その時に、悲しみと憂いに襲われます。そこから新しい希望をもって立ち上がるには？

◎ネヘミヤが同胞の困難を知らされたのが「キスレウの月(第9月)」(1:1)、王にエルサレム行きを願ったのは「ニサンの月(第1月)」(2:1)、両者とも「アルタクセルクセス王の第二十年」とある。ユダヤ歴とペルシアの政暦との間にずれがあった。ネヘミヤは4ヶ月という時間を掛けて主に祈り、時を待った。王に願い、許しと協力を得、エルサレムへの旅が実現したのです。ペルシャ帝国の王宮で献酌官として仕えたネヘミヤは、ユダから来た者たちから、エルサレムの城壁は荒れ果て、ユダヤ人も悲惨な状態にあることを聞き、大いに嘆き、この状態を改良し、城壁を再建する為に王に帰国を願ったのです。その時、ネヘミヤは「わが神の恵みの御手が私の上にあった」と告白しているのです(8, 18)。

◎ラザロ(「神は助けた」の意)はマルタとマリヤの兄弟で、ベタニヤ(18, エルサレムの東3km)で生活していて、主イエス様は伝道旅行の途中立ち寄られ、一家を「愛しておられた」のです(3, 5, 36)。ラザロが愛されているにも拘わらず病気になったので、助けを求めた時、主イエス様は「この病気は死で終わるだけのものではなく、神の栄光のためのものです。神の子がそれによって栄光を受けるためです」と言われたのです(4)。更に主イエス様はその場に2日間留まれ、「もう一度ユダヤに行こう」と決意されたのです。その途中、主イエス様は「ラザロは死んだのです。わたしは、あなたがたのため、…あなたがたが信じるためには、わたしがその場に居合わせなかったことを喜んでいます」と告げられたのです(14, 15)。ベタニヤに着かれるとラザロは「墓の中に入れられて4日もたっていた」のです(17)。マルタが主イエス様を出迎えて「主よ。もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに」と言い(21)、マリヤも同じ事を告げ(32)、それ程マルタとマリヤの悲しみと悼みが深かったのです。

◎主イエス様は「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。このことを信じますか」と語られた時(25, 26)、マルタは「はい。主よ。私は、あなたが世に来られる神の子キリストである、と信じております」と告白したのです(27)。更にイエス様から「その石を取りのけなさい」と命じられ、その「臭くなっている」との実情の訴えに対しても、「もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る、とわたしは言ったではありませんか」とのみ言葉に従い、彼らは石を取りのけたのです(40)。

◎生き返ったラザロは証し人と用いられたのです(12:1, 9, 17)。「死人は生き返るのです」(イザヤ26:19, エペソ5:14)。霊的に死んでいた私たちも同じ恵みに与っていることを感謝し、証ししましょう(エペソ2:1)。